

怠慢華美を敵とせん

甲斐 力(長畑・旧姓 足立)

私は大正四年四月長谷尋常高等小学校へ入学致しました。朝会の際には当時の幸校長先生の作詞なされた校歌「世界に輝く日の本の 前途遠く責重し 進取勇敢殫るまで 一步も後れはとるまじぞ 日々なすことは萬般に 善を愛して紀律よく 質素勤儉旨として 怠慢華美を敵とせん」この校歌を思い出し現在まで私の励みにしています。

一年に入学した当時の服装は、男の先生は詰襟の洋服、女の先生は和服に袴でした。生徒は男女共に和服で、洋服の人は一人もいなかった。履物は草履又は下駄でした。男はひさしのついた学生帽をかぶる人もあったが、かぶらない人もあった。雨降りには紙に油をつけたからかさをして行ったが、持っていない時に雨が降った場合は貸し用の傘もありました。一年生に入学当初は石板に石筆で書いて、布切れで消しては書いて便利でした。一年の時の受持ちの先生は足立六平先生で石板に書いた字に石墨で大きな二重、三重丸をもらったときはうれしさに消さず持つて帰って両親に見せてほめてもらったものでした。二年生からは鉛筆で算術(算数)で九九を習い、三年生では毛筆で書き方を、四年生ではそろばん、五年生では地理、歴史、理科と一層むつかしくなつて来ました。六年生が終わると一応小学校は卒業です。ここで学校をやめる人と高等科に進む人がありました。

高等科一年の時は、一年生と二年生の複式授業でしたが一年だけで二年のときはそれぞれ単独でした。高等一年の時、二羽校長先生の時代でしたが、校舎の裏庭に井戸を掘り生徒の労力により川石を運んで井戸の側壁巻作業をしました。同時に風呂場も造りました。薪は通学の時に家から一本当て持参しました。高等科になつてからは農業科程が増し、実習作業主任は木本(現姓は足立、久原に現住)富太郎先生でした。

下級生の時は風呂敷に本と弁当を横か斜めか背負いにして走つて行つたものです。途中弁当がころがり出て悲しい思いをしたこともあります。